

## 公取協相談窓口からのお知らせ

### 自動ブレーキの作動を自分でテストすることは危険です!!

— 自動ブレーキは安全運転を支援するためのもの。常に安全運転を心掛けて下さい。 —

#### 相談事例

先日、新車が納車された。購入した新車には自動ブレーキが装備されているので、正常に作動するか試そうと思い、自宅の駐車場に段ボールを積み上げて、それに向かって走行してみた。すると、自動でブレーキは作動せず、そのまま段ボールにぶつかってしまい、クルマにキズがついてしまった。



#### 消費者の皆さんへのアドバイス

上記のケースでは、相談者は幸いにも怪我をせずにはすみましたが、このような行為は一歩間違えれば大事故につながるおそれがあり、大変危険です。

販売店が行っている自動ブレーキの体験試乗等は、走行速度や障害物との距離等、定められた基準に基づき、安全を確保した上で実施されているものです。

したがって、自分で積み上げた段ボールに向かって走行したり、前方を走行している車両に減速せずに接近したりするなど、自動ブレーキの作動をテストすることは大変危険ですので、絶対に行わないで下さい。

衝突被害軽減ブレーキ（いわゆる自動ブレーキ）は、ドライバーの安全運転を前提とした「安全運転支援（サポート）機能」であり、いかなる状況においても作動し、衝突事故等を回避できるものではありません。

自動ブレーキの作動には、例えば速度が●●km/h以上◆◆km/h以下の場合、検知する対象が自動車のみの場合や歩行者も検知する場合等、一定の条件があります。また、大雨や霧、路面が濡れている等の気象条件や道路状況によっては作動しない場合もあります。作動条件等は、車両によって異なりますので、機能の詳細については、必ず取扱説明書を確認することや、販売店スタッフに確認する等して下さい。

なお、販売店によっては、自動ブレーキ等の安全装備の機能などに関するDVDを用意していたり体験試乗会を実施していたりするので、問い合わせてみるのもよいでしょう。

操作ミス等が原因の交通事故の発生を受け、自動車メーカー各社では、衝突被害軽減ブレーキ（自動ブレーキ）や車線逸脱警報装置、ペダル踏み間違い時加速抑制装置等の安全支援のための機能を装備するようになっていきます。

これらの機能が装備されている車両の購入を検討する際には、事前にそれぞれの機能の作動条件等を十分に確認するとともに、購入後は、安全運転を心掛けましょう。